

脳の特
性はな
し

発達障がいの子どもたちの支援

吉田 優英(ディスレクシア協会名古屋代表)

平成19年に、日本の学校において「特別支援教育」が施行されました。これは、従来の中・重度の障がいをもつ子どもたちに加え、知的には遅れのない通常学級に在籍している発達障がいの子ども「LD(学習症)・ADHD(注意欠如多動症)・ASD(自閉スペクトラム症)」にも、適切な指導・支援をします。発達障がいは、「目に見えない障がい」とも言われ、見た目ではわかりにくいのですが、さまざまな生きづらさを抱えています。

「支援員」は専門性を持ち、クラスの中で子どもの困難さに寄り添いながら学校生活を円滑に過ごせるように支援をしています。誰でも得手不得手があります。困っている人がいたら、声を掛けたり手助けするのはお互いさまです。子どもたち一人ひとりが、そんなナチュラルサポートを将来に渡ってできる人に育つように願っています。

名古屋市では、「発達障がい対応支援員」という名称で、クラス全体を支援するために配属されています。障がいの有無に関わらず、いろんな特性をもった人がいることを認め合える優しい社会であって欲しいですね。



知っていますか？ コーナーの解説

檀溪通り・檀溪橋の袂に建つ「石碑」が伝える今と昔

Hilo. S (昭和区の歴史と文化を守る会)

日本人の名字にはさまざまないわれがある。「小鳥遊」で「たかなし」である。「月見里」で「やまなし」である。その地の風景を彷彿として粋である。では、「檀溪通」の由来はと言うと、正保二年(1645)に矢場町の白林寺五代目住職「檀溪」和尚が、ここ十五軒屋の地に庵を結び隠棲したことによる。

200年前は、石川とも川名川とも呼ばれた今の山崎川は、この辺りで大きく湾曲して渓流となり景色のよい処であった。藤成の地を潤す「懸け樋」に沿うように、川にかかる土橋が「檀溪橋」である。「尾張名所図会」にも紹介されている勝景地である。四月は桜が、五月には皐月が咲き、この地で詩や歌を楽しもうと多くの詩人や僧が訪れたといわれる文人墨客が集う小仙境でもあった。

現在、「檀溪橋」には、写真にもある「檀溪之勝蹟」の石碑が建っているが、むかしを偲ぶものは見当たらない。

大正九年に建立とあるが、石碑に近寄ってよく見てみると、その表面に大きな欠け跡や無数のきず痕があるのに気がつく。これは「なぜ」だろうか？

実は、この石碑は第二次大戦中の空襲(昭和20年)によって、損傷し、真っ二つに折れてしまった。が、その後、地元の人によって修復されたものだった。

檀溪の石碑は、村雲の「西福寺の寺標」とともに貴重な戦争記録物でもある。



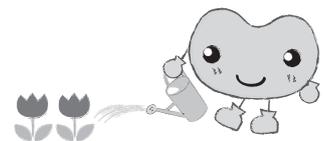
檀溪之勝蹟



西福寺の寺標

こころんクイズ

Q. 昭和区社会福祉協議会のマスコットキャラクターは、
こころんですが、こころんは何のたねまきをしているでしょう。



正解の方の中から抽選で3名の方に図書券を差し上げます

ハガキかFAXでクイズの答え、住所、氏名、電話番号、今月号でためになった記事をご記入の上、昭和区社会福祉協議会までお送りください。締め切りは平成29年8月31日必着。当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。